

本物の変容のための 極めて希な機会

「人々を導くためにはリーダーが必要だが、
リーダー達を生み出すためには偉大なリーダーが必要だ」

ラムサ

RSEの生徒のための報告書
教師とゲストが参加したラムサのミーティングより
2018年5月11日

Copyright © 2018 JZ Knight

本物の変容のための
極めて希な機会

Copyright © 2018 JZ Knight

無断複写・複製・転載を禁じます。JZK, Inc.の一部門であるJZK出版の書面による許可なしに、この文書の一部または全部を、コピー機によるコピー、録音や録画、または何らかの情報記憶装置や情報検索システムを含めて、電子的または機械的に、何らかの形で、または何らかの方法で、複製または伝達することを禁じます。

Ramtha® (ラムサ)、C&E® ()、Blue Body® (ブルーボディー)、Blue Room® (ブルールーム)、Fieldwork® (フィールドワーク) は、JZ・ナイトとワシントン州の法人 JZK, Inc.のトレードマークとサービスマークであり、許可を得た上で使用されています。



JZK 出版
JZK, Inc.の一部門
私書箱 1210 号
郵便番号 98597 ワシントン州イエラム
電話 : 360-458-5201
www.ramtha.com

この報告書について

2018年5月11日にラムサは、RSEの指名された教師達と何人かのゲストと共にミーティングを行いました。そのときに彼は私に、ミーティングの報告書を作成するように言いました。そして、この学校の全ての生徒がその報告書を読めるようにするよう言いました。

ここでのラムサの教えの中心テーマは、生徒達がグレートワークを「生きる」ように、生徒達を真に鼓舞することができる教師になるための挑戦に焦点を合わせていました。そのような教師になるためには、訓練を行っているあるグループがどの地点にいるのかを敏感に感じ取る能力を発達させる必要があります。彼らがブレイクスルーを起こす寸前まで来ているかどうかを直感的に知る能力が必要です。グループがどの地点にいるのかを教師が直感的に知ることができれば、それによってセッションを短くしたり長くしたりする必要があることは明らかであり、勝手に決められたスケジュールが定める終了時間がやって来たという理由で休憩を入れるべきではないことも明らかです。この学校の目的は、グレートワークを生きることを学んだ生徒を世界に送り出すことであり、その目的は、単にスケジュールに従うことによって達成することはできません。

ラムサがこのミーティングで中心テーマに関して言った全ての部分がこの文章の中に含まれていますが、ミーティングの主要テーマから外れた話題に関する多くの短い偶発的な所見や、特定の個人に向けられた、私的な事柄に関する言葉は、この中に入れませんでした。

ミホ・レドウィス

教師とゲストが参加したラムサのミーティングの報告書

2018年5月11日

ラムサ：あなた方のところに戻ってくる日として、今日はすばらしい日だ。あなた方の時間では、しばらくぶりのことだが、私の時間では、膨大な年月が経過した。あなた方はここに来ることができて嬉しいだろうか？親切で、卓越した仕事をしてくれて、ありがとう。

(デビーに)：マスター・オブ・ミュージックよ、私はあなたのことを忘れていない。忘れてしまったように見えるかもしれないが、だが、あなたはまだここにいる。絶対にグレートワークを諦めてはいけない。絶対に。

(ミホに)：私の美しい神父よ、おめでとう。あなたは、極めてすばらしい、並外れた仕事を行った。あれは真実である。あれで終わりというわけではない。おそらくあなたは、「最後の日々」というものを預言者ヨハネの観点からもう少し理解することになるだろう。あなたは、ヨハネとあれら全てのビジョンの正しさを立証することになる。現在起こっていることを見れば、説明できない彼のビジョンがあるだろうか？ あれは、恐ろしい怪物に関するものではない。あれは単に、神、人類、そしてテクノロジーに関するものだ。

(ローラに)：こんにちは、私の美しい赤毛の美人よ。あなた方に会えて嬉しい。知っての通り、人々を導くためにはリーダーが必要だが、リーダー達を産み出すためには偉大なリーダーが必要である。だまされやすい人々がいるので、つねにこのことを忘れないように。というのも、そのときあなたは、彼らよりも偉大になるために生きることになるからだ。

(マイクに)：私の美しい存在よ、こんにちは。あなたは驚くべきものと接して嬉しいか？ あなたのチャネルは今、ブルーの領域に戻っている。彼女はもうかなり長い間そこにいる。いつかあなたも「今」を理解するだろう。あなたのスケジュールに色々な予約が入っているとき、「今」を理解するのはとても難しい。

(アナに)：こんにちは、美しい存在よ。あなたは(チャネルの)新しい主治医というわけだな。ということは、あなたは私と彼女に関して全てを知っているということだな？ ある人間の何かがおかしいとき、つね

にその人間について彼女に聞いてみなさい。多くの人々が、私の何かがおかしいと思っているようだが。私のテーブルによろこそ。

(カレンに) : キッチン・クイーンよ、よろこそ。あなたはかつて大きな邸宅を所有するとともに立派な婦人だった。あなたには召使いがいて、あなたは彼らの何人かに対してひどい待遇をしていた。だが、あなたが年をとって賢くなるにつれて、あなたは親切になっていった。時の経過がつねに、熟成した良いワインとチーズを生み出す。あなたの現在の見事な仕事ぶりは、その人生のおかげだ。われわれ全員が、代わる代わる役割を演じるのだ。

座ることにしよう。ああ、これは古いテーブルではないか。

飲みたければワインを注ぎなさい。

(トーマスに) : あなたは酌人か。あなたは気をつける必要がある。チャンネルは私に飲み過ぎないように厳しく命じているからだ。

冬から目覚めることに

夢見た夢が、春に花開くことに

新しい人生、新しい目標、新しい目的に乾杯

私はそれをあなたの冬の夢の中に招き入れる

あなたは自分の制限に取り組んだ

あなたは自分が好まない自分の側面に取り組んだ

春に目覚めるということは

その叡智を普通の思考にすることである

あなたの叡智に乾杯

ソービーイット

このチャンネルは「かわいそうな人間」ではないということ、つねに忘れてはいけない。チャンネルは別世界に行っている。彼女はそこで、あの驚くべき装置を作り、世に送り出した。これは、彼女という人間の本質部分に何があるかを物語っている。彼女はここにいない。私がここにいる。小さな体に少しばかりの意識が流れ、私はここにいる。

さて、あなた方は保管室にある教えを利用して素晴らしい仕事を行ってきたが、私はあなた方にそれを知ってもらいたい。あなた方の時間の数え方で、それは何年分の教えに相当するだろうか？ それらの教えはここでしか聞けないものだ。何年分の教えだろうか？ 知っている存在に尋ねよう。

マスター・オブ・ミュージックよ、あなた方の時間でどれくらいの長さだろうか？ 世紀をまたいで、前世紀からだったか？

デビー：44年間です。

ラムサ：あなた方の時間では、それは長い時間だろうか？

神父よ、それは「グレートワークへの献身」と呼べるだろうか？

あなた方はとてもすばらしいプレゼンテーションを行っている。この知識と、人間的な視点からの理解、つまり、あの貴重な情報に関して理解する必要がある部分を組み合わせることによってだ。それは外の世界で勢いを増しつつある。あなた方の偉大な仕事によって、それが起こっている。さて、あなた方はとてもうまくやっている。私がやったとしても、あなた方よりうまくやることはできなかつただろう。まあ、私はうまくやった。だが、あなた方は再びそれをやることによって、もっとうまくやっている。

このことも知る必要があるが、このグレートワークは、値段を付けられないほど貴重なものであり、そのようなものとして扱うべきである。そして、準備ができたなら、あなた方は本物の金庫室、つまり、これを収容できる本物の金庫室を作る必要がある。先のことを考えて、その中の温度や空気は適切にする必要があり、湿気があっては駄目だ。過去に本物の教えを保管した人々は（それらの教えは物語にすぎなかったが）、それらを壺の中に入れて乾燥した砂漠に置いた。隣の人間にこれを言いなさい。

(ミホに)：神父よ、コレステロール値はどんな状態だ？ これがあなた方の呼び方だろうか？

ミホ：とても大きく改善されました。

ラムサ：ブルールームがそのやり方を知っていたというのは、興味深いことではないか？ そう、あれはブルーボディーである。それは何でもできる。コレステロール値の改善や、他にも多くのことができる。あなたが知れば知るほど、それはあなたに反応するようになる。次にブルールームに入るときに、ただブルールームに質問してみなさい。十分に考え抜かれた質問だ。ソービーダット。それはランナーも送ってくれる。隣の人間にこれを言いなさい。

それは「アーケン石」のようなものだ。チャネルは世界にスーパー・テクノロジーを与えたのだ。その価値が賞賛されるまで、何十年もかかるだろう。だが、彼女がそれを与え、彼女がそれをデザインしたという理由で、それに対して偏見と先入観を持つ人々がいる。そして、癒やされるよりも憎しみと偏見に固執したがる人々がいる。彼らはつねにそれと敵対するだ

ろう。なぜだろうか？ なぜならそれは、彼らの手から支配権を奪うからだ。隣の人間にこれを言いなさい。

これはつねに人々を脅かす。別世界からのささやかな救済が、苦しみを支配している人々を脅かすのだ。隣の人間にこれを言いなさい。

これはあなた方の全ての夢にも当てはまることだが、このチャンネルはつねにヒーラーになりたがっていた。彼女は子供の頃、母親の家にあった植物を癒やそうとして、逆にそれらをひどい状態にしてしまった。確か、何とかペプトという、ピンク色の液体を植物に注入することによってだ。

だが、彼女の夢は、誰にも気づかれずに終わったわけではない。これはあなた方の夢の場合も同じである。あなた方のより深い夢は、決して気づかれずに終わることはない。では、運命とは何だろうか？ ひとつの計画である。明らかに、彼女は既存の規則に従った方法で医者になったわけではない。だが、その夢はつねに彼女の中にあった。あなた方もやっているように、全身全霊で神を愛することによって、彼女は私のために道を準備することができた。厳しいプロセスを通過して、それが可能になった。

人々を癒やし、人々の健康状態を向上させるという夢は、驚くべき数学とブルーボディーのような「光による救済」を考慮に入れた、より高いレベルのテクノロジーと知識と作業を必要とした。彼女が今いる場所にいるのは、運命が彼女にこのような癒やしの方法をもたらしたからだ。われわれが自分の制限された感覚の中で夢見るものは、つねに認められるわけではない。だが、その夢がもっと偉大な現実へと運ばれるとき（そして、あなたの心がそれでも開かれていれば）、その夢は利用される。あなた方の何人がこれを理解しているだろうか？

極めて多くの人々が「私の夢は決して実現しなかった」と言うが、本当だろうか？ もしかしたら、それらの夢は、知識がなければ感知できないような未来の夢ではなく、過去の色あせた花びらなのかもしれない。制限された存在は、より高い意識の流れを感知することができない。彼らが適切に訓練されてはじめて、彼らはより高い意識の流れを感知できる。これは、40年以上に渡るこの仕事の目的である。この仕事は、人々が神としての自分の立場をより大きな視点から理解できるように、人々に準備をさせてきた。そして、その中で、スーパー意識にアクセスしてそれを利用できるように人々を訓練してきた。それがフィールドワークのときであろうと、C&E呼吸のときであろうと、どんな訓練のときであろうと、そうである。訓練は、知識を拡大してそれを実際に体験するために作られた。体験は合理的な真実を与えてくれる。それを体験したその人間、その存在に

とってだけ、それは重要である。彼らはその能力を受け容れ、それが彼らの心を開くことになるからだ。そうすると、ずっと昔のこれらの夢が、実現する場所を未来の中に持つことになる。何人が理解しているだろうか？ 全ての夢が、実現する場所をこの時代の中に持っているわけではない。だが、未来の時代の中では、それらの夢は言わば、拡大された形で実現することができる。「拡大された」というのは、私が学んだ新しい言葉だが、「今」への拡大だ。それは強引に実現されるのではなく、拡大されるのだ。こうして、普通の人々が「天才」と呼ぶ人間が誕生することになる。隣の人間にこれを言ってほしい。

さて、ここで付け加えさせてもらうが、この存在は化学や生物学を学ぶ必要はなかった。数学は得意である。彼女の脳はそのように考える。発明の才能につながるような、これらの「説得の技術」は何も学ぶ必要はなかった。全員、これに同意するだろうか？ そして、この女はこの装置を生み出すことになる。そして神父も、それが効果があると断言することができる。その理由はこうだ。仮にあなたが鋭い頭脳を持っていたとしても、そして、生物学や諸々の原子構造や粒子、化学や数学を理解し、スピンの理解していたとしても、最終的に、ある粒子が正確に何であるかをどうやって決定するだろうか？ その粒子の光によってだ。これはイエスだろうかノーだろうか？

すべてのものがライトボディーを持っている。というのも、それらは光から降下して物質になるからだ。あなたは、様々な種類の光の集合体であり、そのハーモニーがあなたである。理解しているだろうか？

さて、あなたがこれを理解しており、光を利用した方法に取り組んでいるなら、あなたは、最高の数値の光を持つ元素から情報を得ることになる。それらの数値の光を人間の肉体の中に入れると、その光が肉体の機能を向上させることになる。したがって、物質的な方法で癒やすことは不可欠である。マインドを癒やすことも不可欠である。光で癒やすのは、グレートワークである。隣の人間に言いなさい。

さて、炭素60の光の数値を知っているだろうか？ なぜだろうか？ あなた方が何となく摂取したり、摂取しなかったりしているものについて、詳しく調べるべきではないのか？ それは新しいアイデアだと思うだろうか？ その光の数値を調べてみなさい。それについて詳しく調べなさい。極めて多くの光を持つ、ブルールームのように見える粒子が、どのようにして細胞の大きな能力不足を覆すことができるのか？

何人が学んでいるだろうか？ ソービーダット。私はあなた方にランナーを送る。だが、自分でも調べなさい。単に「はい」と言うだけでは駄目だ。あなたが「光でできた存在」であるなら、あなたのパンも光ではないだろうか？ あなたがあ物質を摂取すれば、それはとても強力なので、光に飢えた細胞に滋養を与えることになる。そして、それを十分に摂取すれば、それはDNAの活力をよみがえらせる。だからこそ、それは寿命を延ばすのだ。これを説明しなさい。

理解しただろうか？ これは、あなたがどう感じるかということではない。思い出してほしい。フィーリングは感情的な体験である。知識のない人間は、何も感じなければ、「あれは何の効果もなかったよ」と言う。

あなたが光の形態のものを飲み込んだら、あなたは何かを感じるだろうか？ それはどのように感じるだろうか？ あなたは何も感じない。仮にオーブがあなたの肉体の中に入り、肉体の手助けをしたとすれば、あなたは何かを感じるだろうか？ あなたが何も感じない理由は、その源が光だからだ。

どんな生き物であろうと、それが老化すると、共通して、炎症を起こした組織や臓器、炎症を起こした細胞が見られる。なぜだろうか？ 物質でできた細胞構造の多くが、光を失いつつあるからだ。それらが光を失うと、死んで残屑になったり、飢えた状態になったりする。そして、飢えた状態の細胞は、液体で膨らんでいる。どんな細胞も、老廃物を排出することなしに液体を取り込むことはできない。こうして、炎症が生じることになる。隣の人間にこれを言いなさい。

炎症というものを理解しただろうか？ 細胞が死につつあるのだ。つまり、水を取り込み、老廃物を外に出すということだ。それは、光を失っている状態であり、光は、全ての物質において、それらの物質を支配している体である。

光の医療の話に戻ろう。事故で負傷した人間や、重病を患った人間が、不屈の意志を持っている場合、彼らは自分の肉体を回復させていく。彼らの肉体の状態にもかかわらず、大方の予想を覆して、彼らの意志が肉体を回復させていく。その意志は、光だろうか？ そして、肉体は十分な光を得たのだろうか？ それとも肉体は、意志から光を受け取っているのだろうか？

マイク：意志から光を受け取っています。なぜなら、意志は、可視光線の領域よりも上からやって来るでしょうから。意志は、より深いマインドからやって来ます。

ラムサ：どのようにしてマインドは肉体を癒やすのか？

カレン：マインドは光を吹き込みます。

ローラ：（マインドは）意志を通して肉体を癒やします。

ラムサ：その通りだ。それは「神の装置」だ。さてここで、われわれはグレートワークの全体的な理解に入っていく。グレートワークとは本質的に、長期に渡って特定の教えを聴かせることを通して志願者を訓練することであり、結局のところ、それらの教えはつねに、その志願者が、集中度の高い意志、そして意志だけを、利用するように要求する。正しいだろうか？ だが、それは色々な領域に適用される。そして、ほどなくして、それがわれわれの「普通の思考」になり、それによって脳の中のスーパー意識の流れにアクセスすることが可能になる。というのも、脳の中には、それを聞くことができる場所があり、それを生きることができる場所があるからだ。

これらの伝達はすべて光を通して行われ、あらゆる言葉に、その言葉を表す光がある。だからこそ、マスターはある特定の話し方で話すのだ。しばしば動詞が名詞の前に存在する。「知っているか、あなたはこれが本当であることを？」「何を言う、あなたは？」というふうに。

何人が学んだらろうか？ 何を言う、あなたは？ なぜ「何を」が最初に来るのか？

マスター・オブ・ミュージック：それはひとつの行動です。それは意志です。

ラムサ：それは副詞だ。

（ミホに）：英語ではそうではないか？ 神父よ、ただうなずくだけでは駄目だ。可能なら私の間違いを正しなさい。私は、何の意味も伴っていないこの言語を扱うのが下手である。

「愛する」というのは、ひとつの行動だ。だとすれば、なぜ行動が最初で、名称が後なのか？

ミホ：動詞がその後の名詞を修飾し、色づけします。

ラムサ：その通りである。だが、名詞が最初に来たとすれば、誰も聞かない。

真に法を定める者はどのような存在か？ 彼らはどのように話すだろうか？ まさにこのように話す。ソービーイット。顕現した光は、そのような命令を聞く。それは決して名詞を聞かない。「私はあなたを欲する。私はあなたが欲しい」という文章だ。

「欲しい、私はあなたが」 こうなれば、われわれは力を持つ。「私はあなたが欲しい」は、だらしのない曖昧な話し方だ。

ハイミー：それはパーソナリティーが話している状態です。

ラムサ：それでは何の効果もない。光に対する力を持ってはじめて、光は反応する。隣の人間にこれを言いながら、自分がどのように話しているかを真剣に聴きなさい。私はそれを聴いているからだ。曖昧な話し方に乾杯！

あなた方は別に、今の曖昧な話し方を避けて世間の人々に話す必要はない。あなた方の社会は、曖昧な話し方しか理解できないからだ。それは、多くの説明を要する言語であり、あまりにも多くの称賛と、あまりにも多くの非難を含んでいる。それらはすべて、パワフルな現実化の技術とはほど遠い。

したがって「光の存在」として（あなた方は結局のところ「光の存在」であるが）、人が最初に「光」に話しかければ、その言葉はその通りになる。そのとき、その言葉はあなたの複雑なウェブとパーソナリティーを通過することがない。私の歴史家達がこれを記録することになるだろうが、確かに、あなた方の言語のこの変わった使い方は、難解でわかりにくいと言える。だが、あなた方が知らなかったどんなことを、私は知っているだろうか？

ハイミー：たくさんを知っています。

ラムサ：これが、エイリアンに話すときの話し方だ。そして、これが、私のような存在に話すときの話し方だ。あなたは、自分を美化するような自分に関する曖昧な質問をしてはいけない。私のような存在であれば、誰もあなたと会話をすることはできないだろう。なぜなら、あなたは既に、この会話の範囲に対して諸々の制限を設定してしまっているからだ。これだけ望む、これだけ欲しい、という具合に。あなたが自分自身の光を否定しているのであれば、どうやって何かを望むことができると言うのか？ 私が今言ったことを、隣の人間に言いなさい。

私が極めて不可解な話し方で話したとき、あなた方の何人が、最高の注意を払って私の話に耳を傾けただろうか？ なぜだろうか？ 私は、通訳のためにそれを部分的に変える努力をしてきた。それによって多くのものが失われてしまうが。今やあなたは知っている。知っているだろうか、あなたは私を？ この学校のトレーニングを通してのみ、知ることができる。この綿密なトレーニングを通してのみだ。

それぞれの訓練は、あなた方が退屈しないように作られたわけではなく、それらはむしろ、新しい存在になることによる安心感を築き上げていくためのものだ。その新しい存在は、輪廻転生による人間のパーソナリティーを無効にする。それは、人間のパーソナリティーを無効にする。このような知識はこれまで学んだことがなかったからだ。これまでの転生では、単に天才やテクノロジーの召使いになるだけであり、われわれの側では嘆願するだけだった。あらゆる世代が新しい肉体を持つことになり、彼らは異なる時代に生まれるが、彼らのパーソナリティーが前回の転生から変化することは希である。

だからこそ私は、「あなたの最高の人生は、今の人生である」と言っているのだ。あなたは今の人生を誇りに思っているだろうか？ クレオパトラではないし、ナポレオンでもない。あなたは今、これまでで最高の存在になっているのだ。どうだろうか？ この目的は、ある存在が自分自身の偉大さを普通に受け容れることができるようにすることであり、信仰に基づいてではなく、体験に基づいて、彼らに「神なる自己」の可能性の手ほどきをすることである。その「神なる自己」は、あのピラミッドの頂点にいる存在であるが、はるばる下のほうで電波の体験と同化してしまっている。40年以上に渡って少しずつ、それは忍耐強く、何度も何度も教え込まれてきた。それに対して、人々は強い嫌悪とともに「これは前に聞いたことがある」と言う。だが、彼らは一度もそれを聞いたことがないのだ。

あなたが人々の前で全てのランプを読めるようになるまで、そしてフィールドで全てのカードを見つけられるようになり、全ての矢を的の中心に当てられるようになり、ブルーボディー・ダンスを踊ってブルーボディーの光を完全に放射するようになるまで、あなたはそれらを聞いたとは言えない。あなたは、自分ではないものを聞くことはできない。そして、彼らは、彼らではない全てのものになることを学ぶために、ここに来ているのだ。

ひとつの人生において、そして、あなた方が理解している時間の中の、ある期間において、これは、本物の変容のための極めて希な機会である。すなわち、古臭いアイデンティティーから輝かしい奇跡的なアイデンティティーへの変容の機会だ。ひとつずつ石を積み上げながら、われわれは少しずつこの新しい城を建てていく。多くの人々は、彼らがそらで言えることを現実化して体験するという挑戦に耐えることができない。これが古代の学校だ。多くの人間がやって来たが、資格を得た人間はほんの少数だった。何が彼らに資格を与えたのか？ 彼ら自身である。

現代のせつかな社会では、「巻物を全て読む時間はありません。私には時間がありませんでした」とあなたは言うが、あなたは道に迷っている。あなたは時間の奴隷になっているからだ。それゆえに、炎症が生じるのである。

グレートワークの中では、これらの教えを愛する生徒達は、この学校にやって来て、ビギニング・クラスをスキップしたがる。というのも彼らは、自分は既にそれを知っていると思い込んでいるからだ。だが、彼らを試してみなさい。彼らは何も知らない。それは彼らに、外の世界で生きる資格を与える。それは彼らに、「天国の階段」を登る資格を与えず、輪廻転生の記録の中に一つの達成として記される資格も与えない。あなたは知っていると思い込んでいるだけであり、「私はこれができる」という感情的な体験を持っていないのだ。

あなたは毎日フィールドに出て、「私はこれができる」というレベルに達するよう自分のマインドに要求すべきである。あなたは絶対に、「自分にはこれができる」と思い込んで自分自身を騙すべきではない。というのも、あなたは本当はこれができないからだ。若者と年寄りの違いが、まさにここにある。子供と男の違い、子供と女の違い、単なる聖人志望者と数少ない本物の志望者の違いが、まさにここにある。

この学校はこれらの事柄を教える。これらは、言葉では表現できないほど貴重なものだ。40・・・何年だっただろうか？

マスター・オブ・ミュージック：41年です。1977年にあなたはJZの前に現れ、今は2018年です。

ラムサ：これには、それくらい長い時間がかかるのだ。ほとんど一生の長さに近い。そして、志願者が新しい人生を選び、完全にそれを理解するとき、彼らは本質的に、全人生をこのワークに捧げるために、前回の人生のカルマを帳消しにしているのだ。なぜなら、そうすることによって、彼らが再び転生してくるとき、彼らは自分が誰になりたいか、自分がどこに行きたいかを選ぶことになるからだ。というのも、彼らは今や「見せる天界」を超越しているからだ。

あなた方の多忙で慌ただしい日常生活の中で、何人がそれを本当の意味で理解したでしょうか？ これは生涯をかけて行うものだ。たった数年で終わるものではない。生徒はつねに弱点を見せられる。そして、すべてを知っているつもりだが事実を生み出せないことに対する不満足感にも気づくことになる。隣の人間に、私が今言ったことを言いなさい。

「知っている状態」が何であるか知っているだろうか？ 「知っている状態」は言う。「私にはこれができる。なぜなら、私は以前にこれを行ったことがあるからだ」と。これは、感情的な体験の正しい使い方だ。感情的な体験はそのためにある。だが、あなたはただここに座って、私に向かって「自分にこれができることを私は知っています」と言うことはできない。あなたはこのワークのいたるところで曖昧だからだ。私ではなく、あなた自身が、それに関して不満足感を抱くべきだ。あなたがそれを理解するとき、この観点からそれを理解しなさい。つまり、あなたには「光」が不足しているのだ。この話の最初の部分に戻るが、あなたは「光」を持っていない。光は、あの虹色の叡智の真珠を輝かせる。自分は何でもできるという自信は、深遠な現実化をもたらす「普通の思考」になる。つまり、魔術のような現実化、妖術のような現実化、魔法のような現実化である。

あなたが単に、哲学のとりこになった凡人であるなら、あなたは決して、これを達成することによって偉大になることはないだろう。用心し、用心しなさい。自分自身のプロパガンダに用心しなさい。隣の人間にこれを言いなさい。

神父よ、あの格言は何だったか？ あの古い格言は何だったのだろうか？ 地獄への道は、何で敷き詰められているのか？

ミホ：善意で敷き詰められています。

ラムサ：そう、それだ。われわれは、善意によって騙されるのだ。善意は地獄へと続いている。あなたは再び戻ってきて、最初からやり直すということだ。そして、あなたが次に転生する場所は、誰にもわからない。隣の人間に、善意について話しなさい。

あなた方の何人が「完成した生徒」を思い描くことができるだろうか？ つまり、フィールドでカードを取ることができ、アーチェリーで的の中心に当てることができ、送信と受信をうまくやることができ、ブルーボディー・ダンスを効果的にやることができ、未来の当たり番号を知って膨大な富を実現できるような生徒だ。何人が、それを一つの可能性として見なしているだろうか？

「私はそのような存在だ」という可能性。訓練の道がそこに連れていってくれるのだ。

あなたが全ての富を実現できるようになったとき、あなたはもはやそれを必要としなくなる。あなたが全ての「光」を実現するとき、あなたはもはや死ななくなる。あなたが「戦士の階級」に属するようになり、自分自身への愛と敬意を実現するとき、あなたはグレートワークを「生きた」こ

とになる。それを「生きた」ことになるのだ。この学校の目的は、そのような生徒を世界に送り出すことである。

この牢獄から抜け出すことは、とても難しい。あなたのコンピューターから逃れることはとても難しい。あなたの電話から逃れることはとても難しい。それらはあなたよりも賢い。それらはあなたの番号を知っている。あなたは自分の番号さえ知らない。

これは私のグレートワークである。チャンネルの運命が私の運命と交わり、それがあなた方の運命と交わり、これを創造したのだ。「食欲さによってこれが起こるのが阻まれてしまった」などと誰も主張することはできない。その反対である。彼女のグレートワークこそが富を現実化し、これが行われることを可能にしたのだ。あなたはそれを理解しているだろうか？ 彼女の現実を詳しく調べてみれば、それがわかる。彼らに何がわかるというのか？

偉大な教師になるということは、多くのことを伴っている。もっと遙かに多くのことを伴っている。それは、あなた自身に関することだ。それは、彼らを励まし、あなた自身がマスターしてこなかったものに挑戦させるといふ、教師としてのあなたの資質に関することだ。人々にとっての本当の光になるために、あなたはそれらをマスターしなければならない。彼らの人生はあなたの手に乗ねられており、自分がここにいる霊的な理由を彼らが理解できるかどうかは、まさにあなたの手に乗ねられている。あなたはつねに、これらの輪廻転生の囚人に対して、最高にすばらしい世話人である必要がある。あなた自身も囚人のひとりだからだ。

結果は重要である。われわれは、これらの人々にフィールドでカードを見つけてもらいたいのだ。彼らが一度それを達成したなら、彼らが再びそれを達成するところを見よう。更に、われわれは彼らに的に当ててもらいたい。彼らが一度、的に当てたなら、あるいは、的に当てなかったなら、われわれは外で訓練を続ける。われわれは彼らの意欲をかき立てる。そうすれば、彼らはあのフォーカスを達成するだろう。というのも、彼らのマインドが停止し、光が現れるとき、彼らは全てを達成するからだ。わかっただろうか？ 隣の人間に言いなさい。神を称えよ。

私は彼らの空腹のことなど気にしない。私は彼らのマインドのことを気にする。あなた方は彼らにそれを言いなさい。

ハイミー：わかりました。

ラムサ：彼らがそれを嫌がるなら、彼らはここから去ればいい。わかるだろうか？ われわれは、まだ待っている少数の人々に教えるのだ。ソー

ビーダット。私のやり方は異なる。私は時間の中で生きていないので、時間のことを心配しない。あなた方は時間のことを心配する。私は時間のことを気にしない。あなた方も私の教えの中でそのことを学んだはずだが、学ばなかったのか？

誰も私がやらせたようにフィールドワークをやらせることはできない。誰も私のようにあなた方をヴォイドまで行かせることはできない。なぜだろうか？ 私は彼らの光を見ることが出来るからだ。あなた方には彼らの光が見えない。その理由は、あなた方の中でまだ光が生まれていないからだ。だが、私のようになれば、光は自ずと生まれるだろう。あるすばらしい朝に、すべてが変わるのだ。わかるだろうか？ あなた方に対する偏見は何もない。あるのは、あなた方が自分自身に対して抱いている偏見だけだ。そして、それはあなた自身の意志である。自分の意志を光に敵対させてはいけない。私が言うべきことはそれだけだ。

要するに、誰でも一日24時間、いつでも食べることができるといことだ。彼らは食べるためにここに来たわけではない。小便をするためにここに来たわけでもない。休憩したり、咳をしたり、誰かと話すためにここに来たわけでもない。彼らは何かを学ぶためにここに来たのであって、われわれは彼らを、何かを学んだ状態で家に帰そうとしている。これは、世界で最も困難な学校である。だが、あなたが理解するとき、あなたは全てを手に入れる。これをあなた方のモットーにきなさい。

あなた方は、チャンネルが癒やされるのを可能にしてくれた。それは強く必要とされていたことだ。彼女は多くの障害に直面している。彼女のマインドほど偉大なものはない。そのようなマインドは他にはない。死ぬことを除いて、これは、彼女がああの世に行ける唯一の時間である。われわれはそれを続けるつもりだ。違うか？ 知っての通り、われわれは今、とてもいいコンディションだ。

あなた方のチャンネルのすばらしいところは、彼女が死ぬことを恐れていない点だ。彼女は最も並外れた人生を生きてきたが、彼女はああの世について知っている。彼女をこの世界にとどまらせるためには、巧みな方法が必要だ。今われわれが見るところでは、彼女がここでやる必要のある日常業務がたくさんある。それは彼女にとっていいことだ。彼女はまだ死ぬことはできない。

(ミホに) : これは誰の絵だ？

ミホ : サン・ジェルマン伯爵です。

ラムサ：並外れた存在だ。人々に気づかれずに生きているマスターだ。ところで、彼は今でも生きている。この世界の中でも外でも。このことを知っていただろうか？ それとも、そうではないかと思っただろうか？

ミホ：そうではないかと思っただけでしたが、それを知りませんでした。

ラムサ：愛しい存在よ、われわれは決して死なない。われわれには人間の死は存在しない。

光に乾杯。

私はあなた方を向上させただろうか？ 私はあなた方に、向上する意欲を与えただろうか？ あなた方の手に、あなた方の世話を委ねられた人々を、より高いレベルで気に掛ける意欲を与えただろうか？

全員：はい。

ラムサ：これからも私はあなた方を見ている。

ソービーダット。